

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	社会福祉法人こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷 桜ホーム		
所在地	島根県益田市横田町710		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年12月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の生活が自然に営めるよう、ご利用者様お一人お一人に寄り添い、個々のペースに合わせた支援を目標としている。職員の動きや想いが業務化せず、ご利用者様を中心に穏やかでゆったりとした気持ちで暮らせる場所作りに努めている。楽しい気持ちを大切に一つでも多くの笑顔、沢山の笑い声のある環境作りを行っている。又、看取り支援にも力を入れ、人間の命と向き合う中、多くの学びを得てスタッフの成長にも繋がっている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念の実践に努め、全職員が日々利用者に自然に寄り添い、心からの笑顔が見られる支援に取り組んでいる。コロナ禍でも事業所のホームページで家族だけが視聴出来る利用者の動画を発信したり、携帯アプリを活用して動画、写真で日頃の様子を知らせている。様々な事が制限される中でも利用者が少しでも楽しみを持って生活していく事が出来るように食事、レクリエーション、行事等工夫して取り組んでいる。管理者は普段から職員一人ひとりの思いや悩み、意見を聞き働きやすい環境作りやスキルアップに向けての支援に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケース会議の中で、理念に添った支援を行っているかを確認している。又、職員一人一人が1ヶ月間の自分の支援を振り返って考える時間を設けている。	毎月、会議の冒頭で職員一人ひとりが自身の支援を振り返る時間をつくり、職員同士で助言し合い、常に意識を高めながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の茶話会やこもれびさんさん祭りで地域の方々と繋がりを持っていたが、3月以後新型コロナウイルス流行の為中止している。	敬老会や彼岸法要の行事等は広報新聞を配布したり看板を立てて呼びかけている。茶話会には知人、友人、高齢者施設に興味を持っている人等の参加があるが、現在コロナ禍で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回こもれび新聞を発行して認知症の方々がどういった生活を送っているか地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方や、市の職員を招いて運営推進会を開催している。その会で取組や現在の支援を伝えている。	地域や高齢者施設に関する情報等も報告して貰っている。災害対策や事故報告に対しても助言を貰い、改善方法を話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会に担当者に出席して頂き、施設の現状や取組、事故等の報告を行っている。	運営推進会議で事業所の取り組みや現状を伝えたり、高齢者の避難場所について具体的な事例を挙げて相談する等、協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正対策委員会を3ヶ月に1回行い、その場で自施設の点検を行っている。	介護保険指定基準の該当がなくても、それに類似した拘束がないか、ちょっとした言動や疑問に思うことを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の様子を見てゆっくり関わるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や内部での研修に参加して虐待にならないようスタッフ間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、施設内でも研修の項目に入れ、話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、しっかりと時間を取り、家族様の想いを聞き取り、困っている事、不安な事を把握するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族様と意見交換をする場を設けている。又、6ヶ月に1回の介護計画書作成の際、ご本人・ご家族の意見や要望を伺い支援に反映している。市や県の苦情窓口を提示し、外部者にも話せるよう配慮している。	家族からは面会時や家族会、介護計画作成時等に聞き、利用者からは日常の会話や家族から聞くこともある。利用者、家族の意見はサービスや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から聞き取った内容を代表者に伝え相談している。	管理者は、会議等での職員の意見や提案を代表者に伝え、運営や環境整備に反映させている。また、管理者は職員が安心して気持ちよく働ける職場であるように常に気を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の賞与では努力や実績を評価し、メリハリをつけている。その際、役職・資格・理念への理解、他職員との協調の5項目で役職、職員代表で審査し、人事考課配分を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加し、内部でも2ヶ月に1回施設内研修を行って話し合いをし、職員同士で切磋琢磨しながら成長できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域のGH施設長が月1回集まり意見交換できる場を設けている。又、その会が主催し、年2回市内のグループホームの職員が集まり、勉強会を開き交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にその方の情報を基に経過観察を行いながら、本人の困っている事や不安に思っている事を軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族様が困っている事や不安な事を聞いたりする事で良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の情報を基に仮のプランを作成し、その後の様子を観察しながら本プランの作成を行い、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見つけ、日常生活の中で役割を持つ事で自然な生活ができるよう支援している。その中で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いや外泊等、機会を作っていたが、新型コロナ流行の為、現在はこちらで対応している。計画書にも家族との繋がり継続を目標に上げ、様々な面で常にご家族様との協力体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の方へ行ったり、面会の時に馴染みの関係がりましたが、新型コロナ流行期から機会が減っている。面会時にご家族様と撮った写真を居室に掲示し、いつでも顔を見られる事で思いを繋ぐ支援に努めている。又、年2回ご家族様へハガキを送る等の支援も続けている。	コロナ禍で全員一緒に出掛ける事は出来ないが知人、友人、家族との墓参り、2ユニット同士の交流がある。兄弟、孫、ひ孫とも手紙や写真で繋がりを大切にしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等把握しながら利用者同士のトラブルがないよう橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したとしても、こもれば新聞やホームページで情報が見れるようになっている。又、退所後の様子を知らせてくださったり、街で見かけると声をかけていただく等、入所中に築いた関係は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言葉にできる方は少ない為、表情や言動などで、思いをくみ取れるよう支援に努めている。	つぶやきや小さな反応も見逃さないように注意し、職員間で情報を共有し支援につなげている。家族から利用者の気持ちを聞くこともあり、関わり方を見直し声の掛け方や体調等に配慮した支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での会話や家族からも話を聞き取り、情報を得ている。又、入居前の担当ケアマネと連携し、情報をいただきご本人把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する力等を把握するためにも職員各々で得た皆様の情報を職員間で共有しながら支援の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケア会議を行い、課題を見つけ出せるよう話し合っている。又、姿シートを活用する事で更にご本人の課題や想いを拾い上げ、ご家族様からの情報や意見を踏まえ、ご本にとって必要な支援に繋がる様計画書の作成を行っている。	利用者と一対一で向き合い希望を聞き取り、家族は面会時や電話で要望を聞いている。職員は気づきやケアの見直し等を積極的に話し合い、利用者の現状に沿った看護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個別記録に記入している。そうする事で情報の共有にも繋がっている。そこから見直した計画書作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに応えられるよう、柔軟な対応ができる計画作成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の訪問や運動会見学、ボランティア訪問等あったが、今年の3月からは行っていない(コロナの為)中学生と地域が行うイベントの竹灯籠づくりを依頼され、お手伝いした。皆様喜んで作業された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診に来られている。休日・夜間の急変時にも相談ができる関係であり、必要な時は専門医の紹介もして頂いている。施設協力医への意向を希望されない方はこれまでの主治医のまま、受診の支援を行っている。	利用者、家族の納得した医師の受診が出来るように支援している。今はコロナ禍で全て職員が同行受診しているが、かかりつけ医に往診して貰う等柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度変化や気づきを相談している。往診の際同席し、医療との橋渡しを行っている。又、24時間オンコールなので、入居者様の急変・異変の相談、医師との連携等適切な支援が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供を行うとともに退院の時期について相談員と共有している。年1回、医療スタッフの訪問があり、連携状況や、その際の対応・改善項目等について話し合う場を設け、スムーズな連携体制づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えたときの話は入所時にしている。重度化した場合は、医師、家族と情報を共有し、本人や家族の思いを尊重できるよう努めている。	方針を入居時に説明し、状況の変化に合わせてその都度家族や関係者と十分話し合い、希望を尊重して対応している。職員は終末期の勉強会を行い希望に沿えるように準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの操作訓練を受けた職員もおおり、急変時に対応できた実績もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自然・火災の避難訓練を行っている。自然災害の訓練には地域の方々にも参加していただいていたが、今年に入り新型コロナウイルス流行の為、規模を縮小して行う予定としている。	地域参加で訓練を行っている。過去に避難した経験もあり、早い段階で動く事を職員同士で確認し合っている。日常の業務の中でもシミュレーションしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ジェスチャーやメモ書きを使ったりとコミュニケーションの方法を個別に分けている。人生の先輩であることをわすれず、接するよう努めている。	利用者の思いを受け止め、人格を尊重した言葉使いや対応をしている。トイレ前にカーテンを取り付けたり、トイレ誘導時の声掛け、同性介護、入浴時の羞恥心に対する配慮等、思いをくみ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で言葉かけ時、ご自分で決定できるよう働きかけている。「選択」できる機会を作る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ、どのように生活したいか決定していただけるよう声掛けに努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時はどの服が良いか伺うことで自己決定に繋げている。又、介助する事で支援している方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刺身が苦手な方は、茹でる等して提供している。盛り付けのできる方や片付けの出来る方には手伝ってもらっている。	好物を聞き日々の献立や誕生日に提供したり、選択メニューで弁当をつくりデッキで食べる等、「食」を大事にして取り組んでいる。野菜の下準備や盛り付け等、出来ることを行えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態にしている。又、必要な方については水分摂取表を用いて把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた口腔ケアをしている。困難な方はうがいのみでも行えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握する事でおむつの使用を減らし、トイレでの排泄を習慣化できるよう支援に努めている。	排泄パターンを把握して声を掛けて支援し、オムツ使用からリハビリパンツや布パンツに移行した利用者もいる。心身の負担を軽減し快適な排泄支援になるよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食や運動を用いて便秘にならないよう支援しているが、それでも便秘になる方はお薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体力的な事も考え、2・3日に1回を目安としているが、できるだけ希望に沿ったタイミングで入浴が楽しめるよう努めている。	ペースに合わせて無理強いしないように体調やタイミングに合わせた支援を心掛けている。身体的には難しいが、浴槽に浸かりたい、という強い思いを持っている人に対し、方法を検討し実現させた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リクライニングやソファーや椅子などでゆっくり休まれるような環境をつくっている。様子に応じて居室での休息を促がしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態に合わせて、手渡しや口まで運ぶ等の支援をしている。皆さんの薬についての情報はいつでも職員が確認できるよう、デスク棚に入れて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ、出来る事を役割として頂いている。体力的な事も考え、時には休んでいただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は入居者様の自宅方面や馴染みの場所を選びドライブに出掛けている。又、ご家族との外出も推進していたが、現在はコロナで行えない状況となっている。	日頃から出来る限り利用者の希望に沿えるよう外出支援に取り組んでいる。コロナ禍でも外気に触れ気分転換になるように庭の散歩や自宅近辺、希望の場所等へドライブに出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品はお預かりしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をされる方がおられますが、難しい方がほとんどです。(難聴の方が多いため)ハガキを送るなどの支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに皆さんと一緒にディスプレイ作りを行い、ホールに展示する事で季節を感じられるよう取り組んでいる。リクライニング席やソファを使用し、ゆっくり過ごせる空間を作っている	みんなで制作した紅葉の切り絵や季節の花の塗り絵等を掲示している。職員が持参した花を見て名前を言ったり話題が弾み、心地よい環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内に一定の距離ごとに座れるスペースがあり、2・3人で腰をかけておしゃべりをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を用いている。又、写真などを設置し、落ち着ける場所となるよう努めている。	家族の写真、使い慣れた家具、肩たたき、押し車、馴染みの衣類等を持参している。愛用する化粧道具や時計を置き、安心して暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の段差は最小限の造りとなっており、個々の状況を把握しながら本人にできる事は行えるよう支援している。		